

2 学年 シラヒゲウニ人工授精

H30.10.10



海洋生物系列では毎年シラヒゲウニの種苗生産に取り組んでいます。この日は人工授精により、ウニの幼生を作る作業をおこないました。

近年、沖縄のシラヒゲウニ漁獲量は激減しており、実習を通してウニの養殖や天然個体の増加に貢献出来ることを目指しています。



まずは使用する親ウニ選び。



塩化カリウムの計量



選んだウニに塩化カリウムを溶かした海水を注射します。



放卵放精が起こるのを待ちます。



しばらくすると、放卵放精が始まりウニを置いた瓶の中に精子と卵が採集されます。



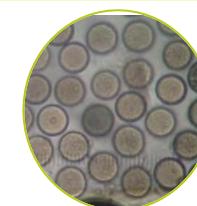
口を切り取り直接塩化カリウム溶液を流し込む方法もあり、こうするとすぐに放卵放精が起こります。



ついでにウニの口の作りや殻の中の様子なども観察します。



卵と精子を大きな水槽に移し、授精させます。



←授精卵を顕微鏡で見たところ

この後、1ヶ月間ほどプルテウス幼生として過ごし、稚ウニになります。

